

適性検査Ⅰ

注意

- 1 問題は[1]のみで、2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 解答を直すときは、きれいに消してから、新しい解答を書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められたところに記入しなさい。

東京都立武蔵高等学校附属中学校

1 次の二つの文章Aと文章Bを読んで、あとの問題に答えなさい。

(文章A)

最近、東京の下町に住む友人から宅配便がとどいた。何と、朝顔の鉢植えである。棒を二本立て、それに蔓をまきつけた、よく朝顔市で見かけるものだ。

そういえば朝顔市と聞くだけで、すぐ東京の下町、深川あたりの風情が浮かんでくる。なつかしい。

いま京都に住む私に、東京の夏の情緒を送ってくれたのかもしれない。そう思って指折り数えてみるとこちらへ来て十六年になる。

その上、朝顔には風鈴が添えられていた。もっとも古風で代表的な、金魚の絵の丸いガラス玉に、これまた吊るされたガラス棒が当たる仕組みのものだ。

小さな短冊がつけられている。それが風にゆれてガラスとガラスがふれる、いかにも涼しそうな音が、すぐ思い出される。

その下に、朝顔が咲いているとなると、まったくみごとな、少年のころの夏休みである。

蚊取線香の煙りでもたっていたれば、申し分がない。

そう思うと、昔は夏を迎える時の趣向が、いろいろ工夫されていたことに気づく。朝顔の種子をまき、軒に風鈴を吊すだけではなく、障子はいつせいにはずされて、簾にかえられた。もちろん秋を迎えると、また元の障子にもどる。それでこそ、障子は冬の季語となる。一年中ある近ごろの障子では、なぜ障子が冬の季語なのか、わからないはずだ。

畳の上にも葎箆がおかれた。畳では多少、ベタベタして暑い。だから葎(葎でもある)を編んだものに替えると、いかにもひんやりとした感触が足の裏につたわる。これまた夏の間だけで取り払われた。

家の中だけではない。町へ出ると「氷」と書いた布切れが、へんぼんと店の軒先にひるがえった。

あれは、あの小さな布に一字だけ書くのでなければ効果がない。かりに長い旗に「氷あります」と書いてあっても、イメージにあわない。ましてやブリキの看板に「氷」と書いてあっても、おそろく全く売れないだろう。

結局、私たちは「氷」の布のひるがえりを見ただけで、すでに「かき氷」を食べた気になる。

同じように、朝顔を見ても風鈴の音をきいても、何も気温が下がるわけではないのに、私たちは涼しさを感じる。

簾だって風がなければ動かないのだし、葎箆張りだって、多少畳より目が粗いだけだ。

つまりは、すべて涼しさを期待し、その期待だけで十分、実際に涼しくなったように感じるにすぎない。しかし、それにもかかわらず、実際に涼しいつもりでいる。

この「つもり」を昔の人は大事にしたのである。

ところが昨今は、「つもり」になっていたって仕様がなと思う風潮がさかんである。現実にはクーラーを入れて室温を下げるのであれば、バカバカしいと思う。

どうだろう。はたしてその方が賢いのだろうか。室温はクーラーがなければ涼しくならないが、「ああ涼しい」と思うことは、簡単にできる。お金は一銭もかからない。

のみならず、現実などという代物は、大半が、どう思うかで決まってくるのではないか。

「あなたはしあわせかどうか」と聞かれて、客観的に答えることはむずかしい。主観的になら、いくらでも答えられる。

だから人間、事実を詮索した上で受け身で現実を判断するよりは、むしろ積極的に心を持ち出して、氷の布に涼しさを感じる方がよい。

涼しくなった「つもり」など、何の役にも立たないと考える風潮は、人間を貧しくしているのではないか。

「つもり」とは、人間の工夫する知恵として、大切なものだったと思う。
(中西 進 「日本人の忘れもの 3」より)

○ことばの説明

① 葎箆…葎(葎の茎)を編んで作った簾。

② へんぼん…旗などがひらひらとひるがえる様子。

③ 詮索…細かいところまで、調べもとめること。

(文章B)

言語にあまり頼らず以心伝心を重んずる日本の文化は、一を聞いて十を知る感性と知性の両方を求められる。余計なものを省いて、削って、最小に純化されたものから無限を見るのである。俳句を例にとれば、たった一七文字の中に人間の計り知れない想いや、自然が存在する。

盆栽や生け花や枯れ山水なども然り。これらもまた、無駄と思われるものを最大限に省かれた上で、大宇宙をも想像させる空間や奥行きが配されている。

これらのものを理解し、あるときは感動し、あるときは涙し、ないところからあるところを見出しながら鑑賞する日本人は、知的な情緒にあり、繊細な優しさの持ち主である。

元来、日本人は曖昧なもの、はかないものを好む傾向があり、そこから生命の力強さや、美しさを探し求め、発見することが得意だ。

たとえば、雨を表わす言葉だけでも、春雨、五月雨、時雨、木の芽雨、藤の雨など、数え切れないくらいあり、うっとおしい雨の日も情緒あふれる表現によってよいイメージに変換していく、いわばプラス思考の原点なのである。

① スチュワーデスをしていた、ちようど、桜の季節の出来事であった。到着前のアナウンスをするときに、機長からの報告による天候は、高曇りであったのに、

「皆様、この飛行機は、四〇分程で新東京国際空港に着陸致します。東京の天候は花曇り、気温は摂氏……」

と、言い間違えてしまった。しかし、私がアナウンスをしている姿をこ覧になっていたお客様から、

「花曇りとは美しい言葉ですね。六年振りですが、日本に帰ってきてよかったです、つくづく思いましたよ」

というお言葉を頂き、失敗も災い転じて福となす、日本語の魔法に感謝するばかりであった。

先日、朝のニュース番組で若い女性アナウンサーが「今日は一日中、雨の予報です。嫌ですねえ、気が減入りますよね」といつているのを聞き、思わ

ず溜息が出てしまった。大勢の人に影響を与える立場の人は、言葉にも工夫がほしい。雨に濡れた紫陽花は一段と美しさを増し、街路樹の緑は生き生きと薫る。日本流プラス思考でいえば、朽ちて壊れかけた軒から月が見えるのは、貧寒なことではなく、風流なこと、となる訳である。

現実の生活では、ここまで風流を極めることは難しいが、このような考え方を日常の身近な出来事に生かせば、肩にかかった重荷は軽くなり、心を忘れがちの毎日に、優しさと潤いをもたらしてくれる。日本流プラス思考は、より美しく、より色鮮やかな言葉探しから始められ、誰にでもできる。一人でもよいし、友がいれば、尚楽しい。是非、試して頂けたらと思う。

(立野 恵美子 「今、いちばん大切なこと」より)

○ことばの説明

① スチュワーデス：飛行機内などで乗客へのサービスをする女性乗務員。

② 高曇り：雲が高くかかって曇っていること。

③ 花曇り：桜の花の咲く頃の、空が一面に薄く曇っている状態。

④ 貧寒：貧しくて、さむざむとしている様子。

問題一

文章Aと文章Bの主題をそれぞれ三十字以内でまとめなさい。「、」や「。」も字数として数えます。

問題二

(一) 文章Aと文章Bに共通するものの見方を三十字以内でまとめなさい。「、」や「。」も字数として数えます。

(二) (一)でとらえたものの見方をもとに、見聞きしたことや体験したことの中の「生活の工夫」または「言葉の工夫」について、自分の考えをまとめなさい。ただし、本文の中で使われている例はのぞくこと。題名・名前は書かずに、四百字以上、四百六十字以内で書くこと。「、」や「。」、段落をかえたときの残りのます目もそれぞれ字数として数えます。

解答用紙 適性検査Ⅰ

1

問題一

(文章A)

Vertical grid for Article A, 30 columns wide.

30

(文章B)

Vertical grid for Article B, 30 columns wide.

30

問題二

(一)

Vertical grid for Question 2 (1), 30 columns wide.

30

(二)

Main horizontal grid for writing answers, 460 columns wide.

460

400

300

200

100

受検番号

Box for entering the candidate number.

得点

Box for entering the score.

*のついているらんには何も記入しないこと。

* []

* []

* []

* []

* []

* []